

【教頭先生を紹介します】

4月から尾知山教頭先生に代わって、園田東中学校から中教頭先生が着任されました。中教頭先生は、以前大成中学校に勤務されていた時期があり、地域の様子もわかり、地域の方々とも面識があって、“ふるさとに帰ってきた”というところでしょうか。見たところ、小柄で穏やかな感じですが、何しろ剣道七段の強者ですから、少々のことには動じません。信頼の置ける教頭先生です。



教頭先生から自己紹介

中 俊弘 昭和35年12月8日生まれ 49歳 中京大学体育学部卒業
平成5年から14年まで、9年間大成中学校で勤務し、今年園田東中学から転勤してきました。
大成中学校勤務時代は、剣道部顧問として近畿大会7回、全国大会2回出場。また、生徒指導担当として7年間地域の方々に変にお世話になりました。前回勤務した9年間は、教師も生徒も授業や行事に真剣に取り組んでいました。そのときのように、『自分を大切に、挨拶のできる大成中学生』を校長先生を中心に教職員が一致団結して育て上げられるよう頑張りますので、宜しくお願いします。

【新聞記事から】

右の文章は、新聞の投書欄に載っていました。このような投書が新聞に載ること自体、いかにも社会のルールやマナーを守れない大人が多いか、ということだと思います。子どもは、大人の姿を見て育つものですからね。学校でも、挨拶や言葉遣い、ゴミを出さない、公共物を大切に使うことなど、『当たり前前』のことが当たり前前できるように指導をしていますが、親の実践にはかき足りません。それにしても、『生活の様々な場面で人への気配りが足りず、まだまだ未熟だと感じる』ことが何と多いことか、という68歳のおじいさんの、何と素晴らしいことかと思う。



「今時の高校生にしては行儀がいいなあ」と思いながらその様子を見ていた。当たり前前のことなのだが、感心してしまう私がいる。もちろん消しゴムかすだけのことでない。最近、こんな当たり前前のマナーが守られなくなってきたからだと思う。

「心に銘じてできるだけ実践してきたが、今でも私は毎日の生活の様々な場面での人への気配りが足りず、まだまだ未熟だと感じる。それが何と多いことか。それだけに、何げなく目にした高校生の「当たり前前」の行動が印象に残った。普通は悪い意味で使われる慣用語だが、この時はやはり良い意味で「親の顔が見た」と思った。

「当たり前前」できる少年に感心

無職 中森 誠二
(金沢市 68)
学生時代、禅寺の座禅会に参加し、お坊さんから教わったことがある。洗面台を使って水滴を飛ばした時はきれいにぬぐって元の状態にする、ということが自然にできるようだ。

先日午後、図書館で本を読んでいた時のこと。私の向かいの席の男子高校生が、英語の問題集に取り組んでいた。帰り際、彼は机の上で自分が出した消しゴムかすを両手で丁寧に集め、ゴミ箱に捨てていった。

【保護者の皆様へ～教育について語りましょう～】

大成中学校に限らず学校は今、多くの課題を抱えています。学力、人権、友人関係、携帯電話、進路、生徒指導、学習環境、等々・・・その多くは、学校だけで解決できるものではありません。また、それぞれの課題に対する認識においても、学校・家庭・地域の間には微妙に“温度差”もあります。それ故、種々の課題について少しでも家庭や地域と学校とが問題点などを共有する必要があると、以前から言われておりました。校長といたしましても、種々の教育課題について、定期的に皆様と直接語り合う機会があればと考えておりました。着任2年目を迎え「語り合う会」をぜひ実現したいと思い、計画をいたしました。何名の方にお集まりいただけるのかもわかりませんが、肩のこらない雰囲気の中で、自由に話し合えたらと思っています。毎月第2金曜日、第1回目は5月14日(金)午後7時から2時間程度を予定しています。どうぞ気軽にお越し下さい。場所は、本校図書室(本館1階)です。

